

第2回王子駅周辺まちづくりガイドライン検討会
議事要旨

日時：2022年1月19日（水）15:00～17:00

場所：北とぴあ 16階 1601会議室（傍聴席は1602会議室）

1. 開会

事務局 ・開会宣言

2. 部長挨拶

十条・王子まちづくり推進担当
部長 ・開会挨拶

3. 出席委員数の報告と資料の確認

事務局 ・出席委員数の報告（会議の成立）
・資料の確認
・傍聴席を別室にした旨の報告（感染予防対策）

会長 ・会長挨拶

4. 議題

事務局 ・配布資料にもとづき説明

会長 それでは、ここから皆様のご意見、ご質問をいただきたいと思いま
す。まず、前回いただいたご意見を踏まえまして、この様に対応しまし
たというのが前半にありました。P17の前の検討の修正、P14、15、
16、17の新しい提案、構造図、まずは、このあたりまでご意見をいた
だきたいと思います。いかがでしょうか。

会長 P12までが前回のご意見を加えた修正ページで、これについてはご
意見がないということで、この様に修正するというので宜しいでし
ょうか。その後P14～17までの新たな提案でウォークブルエリアでの
ネットワーク、将来構造図の提案があります。これについて、何かござ
いますでしょうか。

- 委員 ウォーカブルエリアは、歩行者が歩きやすいということで、イメージ的には歩いて来られる方が、楽に歩き回れるということだと思いますが、障害者、若しくは車いすの方などを含めた表現にできないものかと思います。例えば段差のないエリアなど。周辺の道路を見ますと歩道の縁石に段差がありまして、車いすの方、若しくは白杖をついた方などが非常に歩きにくいと私の協議会の方からも意見が出ています。一部区内で、とても緩やかにスロープにしているところもありますが、是非ともこのウォーカブルエリアや周辺は、今回の色々な取り組みの中に、障害者の方にとっても歩きやすい、歩行者及び障害者に配慮した言葉をこの中に入れていただけたらありがたいと思います。
- 事務局 いただきましたご意見については、ご指摘の通りかと思います。今は一般的な表現となっていますが、高齢者や障害者の方に配慮した内容に今後整理していきたいと思います。ありがとうございます。
- 会長 これからも絶対に必要なことだと思いますので、よろしく願います。その他は、どうでしょうか。
- 委員 北区では、ゼロカーボン宣言を2050年までにやることとなっていますが、色々な圧力でもっと早まると思います。そうした時に、区として宣言した2050年というのは、もう一度2040年にしようとか変わってくる気がします。早く進めないと取り返しがつかないことになるのではないかと。国連でも協議されている様ですので、本当に2050年という目標にしてしまっているのかどうか。少し疑問に思っております。
- 事務局 只今ご意見がありました様に、区として、宣言は2050年に一つの目標として定めており、これから着手していきたいと思っております。実施については、ご指摘も含めて、まちづくりの取り組みの中でも、精力的に対応していきたいと思います。出来ることから少しずつ実施していきたいと考えています。
- 副会長 ウォーカブルエリアの言葉は非常に魅力的な言葉で、現在、全国で使われているウォーカブルの施策に取り組むものと言えます。是非、王子駅ならではの魅力的なウォーカブルエリアをつくっていただきたいと思います。
- P15 にその必要性が書かれていまして、仮称ということで名前は次回つけられるということですが、ウォーカブルエリア内の課題がいくつか書いてあります。特に回遊性が高いまちづくりを推進していくエリアとして位置付けるということで、人が回遊していくということ、その時に分断する要素があるということが書かれています。JR、幹線道路、石神井川などの分断する要素がある場所にウォーカブルエリアの

円を描いていますので、分断する要素を一つずつ解いていかなければならないと思います。

JR、幹線道路、石神井川と明記されていますが、それぞれをどの様にして、分断要素を横断しやすい様にしていくのか。もっと具体的な方策など、もう少し踏み込んで書いた方がいいという印象を持ちました。その辺り、事務局の方でお考えがあれば、お話しいただければと思います。恐らくガイドラインをつくった後、具体的な整備にも繋がっていく話だと思うのですが、やや抽象的な表現になっていると思います。P16もそうですが、もう少し皆さんのイメージを広げるためには、具体的な絵を描いていただいた方が良いのではないかという気がしています。関係者の方々もいらっしゃるので、そこは配慮しないといけないと思うのですが、何よりも区民の方々、関係者の方々が共通のイメージを持つことが大事です。特に分断が課題であるという部分は共通認識を持っていると思っていますので、それを解決する方策として、どういうイメージがあるのか、共有していただく方策はないものかと考えております。

事務局

只今、ご指摘いただきました様に、整備位置や手法を出来るだけ具体的に示していきたいと考えていますが、現段階ではイメージという表現でまとめさせていただいている様に、より具体的な表記については難しいと事務局としては認識しているところです。

資料 P20 にお示しの様に、平地と高台、西と東を結ぶ防災・バリアフリーネットワークだけでなく、回遊性にも繋がるネットワークづくりについて、本ガイドラインで考え方を整理させていただきまして、それを踏まえて、より具体的な検討をしていきたいと思っています。

会長

それでは、この辺で前回のご意見を踏まえて、この様にさせていただいたということによろしいでしょうか。P18 以降の先行実施地区について、移りたいと思います。何かご質問、ご意見がありましたらお願いします。

委員

ウォークブルエリアの具体的なイメージが出てきません。今後の歩きたくなる通りという意味では、私共は、王子商店街の中の管理をやっていますが、実際のところ、管理運営はなかなか難しいです。店の隣が公衆トイレになっているのですが、管理運営一つとっても、上手くいっていないという実態があります。

今後、先行実施事例を作られると思いますが、できるだけ公民連携で、まちと公共施設のバランスをどの様にとっていくのかというあたりを具体的に示していただけると大変ありがたいと思います。

事務局 只今ご意見をいただきました様に、ハード整備は、行政が主体となって進めていくものと考えていますが、そこでどんな活動をするのか、どんな使い方をするのかという点については、地域との連携を踏まえて、検討していく必要があると思っています。その考え方につきましては、少し精査させていただきまして、次回に方向性を整理して、お示ししたいと考えています。

委員（都職員） 石神井川が分断要素の一つということで、こういった取り組みで歩行者のネットワークを作っていくということは、非常に良い話であると理解しています。ただ、先程からお話があるとおりの、石神井川周辺の絵姿がどのようになるのかという、具体的なイメージが湧かないので、どの様に進めていけば良いかと思っています。どういう風にやっていくかという手法によっては、必要性や課題などの整理をしっかりとしないといけないというスケジュールには乗ってこないかと思っています。その中で、オープンハウスを行うということで、イメージだけが先行してしまわない様に、ご覧いただいた皆様に先行してイメージが入ってしまうことがない様にご配慮いただければと思います。

事務局 今回の資料につきましては、イメージという形にはなりますが、王子のまちづくりの方針を少しでも皆さんにお示ししたいと思い、資料を作っています。今後のより具体的な計画につきましては、お示しさせていただいた資料を基に作成していきたいと思っています。

ただし、検証すべき課題があることやあくまでもイメージであり確定した内容ではないということを、しっかりと説明させていただきながら、まちづくりの方向性としてはこういったものを考えているということをお示しさせていただいて、それについてのご意見を聞いていきたいと考えています。

委員 石神井川のそば（堀船）に住んでいるが、この表現の中に石神井川が街を分断しているという表現がいくつかある。住んでいる者からすれば、石神井川には、王子駅側から王子桜橋、柳田橋、堀船橋、溝田橋など、すでに橋がいくつもかかっている、あまり分断されているという認識はないです。

王子駅の南口以降は中央口、北口以降はそういった橋が架かって繋がっている、分断されている気はないのですが、実は、堀船の方々が前から言っているのは、石神井川を暗渠にして、フラットにできないかと。全部塞いで、今後建つ新庁舎と堀船、栄町などのこういったところが一体化になる。そういったイメージを持っています。

石神井川と堀船の分断という認識であれば、石神井川を暗渠にして

フラットにすることで、王子駅中央口若しくは北口にも非常に行きやすくなるという様なことが表現され、若しくは実行・検討していただければ、と思います。

事務局

ご提案いただきました石神井川の暗渠ですが、事務局としては、実現は難しいと考えているところですが、いただいたご意見も踏まえまして、今後、エリア内でこういった形で回遊性を高められるかなどを検討し、これからの策定作業を進めて参りたいと思います。

副会長

この会も2回目ということで、4回の検討会でアウトプット、最後のガイドラインの案までいくということで良いでしょうか。毎回議論する中で、全体像の中のどこを議論しているかを整理しながらでないといけないところがあるので、整理をしながら進めていきたいと思っています。

4回の議論では、案を皆さんにお示しする。最初に議論があった防災や環境は、それぞれ環境基本計画などに、防災については、庁舎建設の中に反映していく。その内容をガイドラインの中に盛り込んで、関連付けていくということでしょうか。

事務局

本ガイドラインの検討と、環境基本計画及び新庁舎建設基本計画の2つの計画が並行して検討していますが、今回の議論を踏まえて、新庁舎建設基本計画でさらに具体的な検討を行っていきます。お互いに連携しながら検討を進めていき、最終的な計画案の段階では、それまでにまとめられた内容を盛り込んでいきたいと考えています。

副会長

案を今回出して、見ていただくことで、大体の全体像が見えるのが望ましいのかと思います。そう考えると、今日の説明の先行実施地区でありましたが、30年という話と15年という話の部分が分かりづらいかと思います。

これから王子の計画をまとめていくのに、本日ご参加の地元の方々も含め、王子の地元の方々によくご理解いただく必要があります。2年や3年で出てくる話ではなく、最終形の30年という時間軸は我々が聞いてもなかなかピンとこないところがあります。15年と30年でどう違うのか、30年という長い時間をかけてこのプランが少しずつできてくるという時間感覚を協議して共有していかなければならないと思っています。

そういう意味で今後、第3回の検討会の前にオープンハウスを挟んでいます。そこで何を、どこまで示されるのかということがあるかと思っています。そうすると、現実的には難しく、今日、王子の駅を降りましたが、こちら側から飛鳥山側に橋を架けるとすると、どこに架

けるのだらうとも思いました。その橋もエリアを結ぶ機能と共に、避難に使うとなると、今回の噴火ではないけれども、高台に一斉に皆が避難している映像があったと思います。そのようなものを作らないと危ないのではないかという話が出てくる。そうするとなかなか難しいが、議論を深めていかないといけないのと思います。

5月のオープンハウスで、どういう風に皆さんに知ってもらって、どういうことを考えていただくのか。今日のご説明だと、王子駅前ですやりますという感じだったと思いますが、課題は何でしょうという程度のことを聞くのか。

事務局

現時点で考えているオープンハウスにつきましては、第1回及び第2回検討会の内容を整理して、パネルとしてまとめた上で、職員がサポートしながら、来場された方々と対話を行い、そこでのご意見を拾っていきたいと思っています。

併せて、その後の進め方としましては、案ができた段階で今一度、パブリックコメントを実施しまして、改めてご意見を伺っていきたいと考えています。

会長

動画コンテンツの配信があるらしいのですが、これは、こういったものなのでしょうか。

事務局

まだ、作成の作業に取り掛かっていないのですが、ユーチューブの活用を予定しています。検討会の資料にナレーションを入れて、区として、王子駅周辺のまちづくりについて、こういった方向性で考えていますといったものを作り、いつでも都合の良い時に見ていただきたいと考えています。また、動画をご覧いただいて、それについて感じたことをWEBアンケートでご意見いただきたいと考えています。

委員

この表を見ていると、拠点形成エリアですか、印刷局でしょうか。この中のどの部分を北区は購入できているのか。この図だと曖昧に描いてあります。P21の水色の破線で表示しているところとP19にある赤破線で表示しているものは違うのでしょうか。赤い方の表示については、防災ネットワークということで南北交流軸ということで、P21では交流のためのものとなっていますが、少し違っていると思います。印刷局の中の恐らく道路をイメージしていると思いますが、もう少し具体的なことが分からないかと。どこからどこまで印刷局で、どこからが北区のものになるのか、そういうものがはっきりしてくると、道路はこうなるのだらうなということが分かってくるのではないかと思います。そのあたりをお願いします。

事務局

P19とP21は同じ様な図になりますが、表現が少し違うのは、イメ

ージと整備計画という点になります。内容のリンクはさせてはいますが、表現方法のご指摘のとおりかと思えます。

現在、印刷局とは、現在の印刷局の敷地のうち約 14,000 m²を北区の新庁舎用地として、譲渡していただく協議を進めているところです。おおよその配置ですが、お示しの図の右の一番大きい部分が新しい印刷局の敷地、少しグレーの部分が新庁舎の建物になります。まだ敷地の境界がはっきり定まってはいませんが、この配置を基に新庁舎担当の方でも具体的な検討をしているところです。

委員（都職員） ガイドラインの後に、整備計画等の具体的な計画をお示しになる計画があるのでしょうか。各委員の方から、かなりざっくりし過ぎていて、よく分からない、イメージが湧かないといった話があったと思いますが、私もそうだと思います。

このガイドラインの先行実施地区は、概ね 15 年ということで、かなり喫緊なのかなと思います。誰が何をいつの段階で作るのか、もう少し具体的な話ができるようなものでないとガイドラインが役に立たないものになってしまうという気がしています。

ウォークラブルなまちについて、王子駅前周辺のまちづくりをどうしていこうかという話なので、非常に良い話です。しかし、具体的にウォークラブルとはいうけれど、駅前結節点の機能として、駅に来た人がメトロなり JR にどの様にウォークラブルなまちを使っていくのかなどが今の段階のガイドラインでは分からないところが多い。

バリアフリーの観点でもウォークラブルというが、どの様な観点でバリアフリーがやっていけるのかが見えない。交通結節点という意味では、ウォークラブルにするので、自転車や車は追い出してしまうのかということも見えない。自転車も、ある程度距離がある人が駅に来た時に、離れたところに駐輪場を作られたら不便だとか、そのあたりの議論も今後少し具体化していただきたいと思えます。

事務局 ご指摘の通り、資料ではイメージや曖昧な部分も多いかと思えますが、北区としては、まずは整備計画を整理させていただいて、それを土台として具体的な内容について、個別に関連する方々と協議をしていく必要があるかと考えております。

今回のまちづくりガイドラインにおいては、区の方角性と駅前については、整備メニューをまずは整理させていただき、それをもとに更に具体的な内容をお示することで、次のステップに進んでいきたいと考えていますので、ご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。

委員 ここは、地元の者としてお話したいと思っております。今、時系列で

というお話がございました。北区でも、基本構想という 20 年ごとの北区の方向性の会議を進められております。また、15 年後を目安に新庁舎が王子印刷局のところにできることもあり、まちづくりに関しましては、地元としては、15 年後を目処にどういった形で新庁舎ができあがっていくのか、それに伴ってどういった形で王子駅前が変わっていくのか非常に注目されている場所でもございます。

地元としてどういった形で生活をしていったら良いのかということが曖昧になっている。ウォークブル、回遊性という話が出ました。それが働く人のためのウォークブルなのか、住む人のためのウォークブルなのか、遊ぶ人のためのウォークブルなのかにより、それぞれで考え方も違ってきます。防災の取り組みの具体化に関しても、このエリアは水害が出ると 1.5~2.5m くらい大体 2F くらいまで水が浸水する地域であります。それに対して具体的にどういったまちづくりをして、どういった形で防災の課題をクリアしていくのが切実な問題となっております。そのあたりのしっかりとしたお答えをいただきながら、まちづくりをしていかないと考えております。次世代にとって住んでいく方々にふるさと意識を持っていただき、住み続けられるということをお願いしております。

我々にとっての使命としての課題だと認識しています。検討課題について分野を 4 つに分けて具体的にお答えを用意していただいているので、それぞれに、どういった街づくりを考えているかをくどいくらいのまちづくりのイメージを示していただけるとありがたいと思っています。P14 の居心地が良く、歩きたくなるまちなどのこうした絵を見たり、まちづくりにこれだけの人が動いて、見晴らしの良いエリアができるということは、住んでいる人にも働いている人にも、こういうまちづくりができてよかったなと納得できる様なものをお示ししていただけるとありがたいと思います。

委員（都職員）

P21 の整備計画案の先行実施地区で、ここではこういうことをするという番号を振って説明がありました。1 で貫通道路を整備して車を回すことで、線路沿いの 6 の区道 65 号を歩行者専用とする。車を回して線路沿いににぎわいの拠点をつなぎ、石神井川沿いの歩行者空間というところを修景化していくということだと思いますが、もう少しそういうところがイメージとして伝わる様に、パースなどを用いると空間がどう変わるのかが分かると思います。ここのページで勝負していくのだと思うので、表現の工夫というのが出来たら良いのではないかと思います。

委員（都職員） まさに P21 が重要な部分だと思います。ガイドラインは開発を誘導していくものであるので、地区計画などの都市計画のことも少しイメージを持ちながら、検討しているのだと思いますが、その時にどのような位置づけが必要になるのかという視点を少しお考えいただいて、整備計画の案を作られていくと分かりやすいのではないかと思います。

そういうものを示すことによって、事業者さんたちがきちんと整備をしていく流れになっていくわけなので、北区とは別途、行政間で調整をさせていただきながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

会長 私も皆さんと同じ意見ですけれども、具体的にいうと、P21 だと駅前広場のバス、タクシーの乗りやすさなどが見えにくい。北口が大きな広場機能というところだと思うけれど、若干孤立している様に見える。P20 を見ると、東西は防災バリアフリーネットワークが想定されているが、南北にはそれがない。バスが止まっている場所と南の方の繋がりが明治通りを渡る部分になるが、この辺りはどう考えているのでしょうか。

事務局 ネットワークのイメージとしましては、基本的には地上レベルでウォークアブルにまち全体が繋がる形で整備をしていきたいと考えています。そこに、防災・バリアフリーネットワークといったものを併せて整備をしていきたいと考えています。図としては、南北の表現が無いですが、そういった全体像を考えているところです。

会長 ウォークアブル、回遊するということはあるのですが、駅なので、駅の結節機能は非常に大切だと思います。バスやタクシーで駅まで来た人が、すんなりと鉄道に乗れることも重要なウォークアブルのポイントだと思います。今日の資料では、それが見えていないというのが正直な感想です。そこは、どうでしょうか。

事務局 今回は、歩行者ネットワークのイメージをお示しさせていただいていますが、次回に向けて車のイメージを整理させていただいて、ご提示できる様に検討していきたいと思っております。

副会長 まちづくりというのは、最初は大きな構想やイメージからこういうまちづくりにしていきたいと、計画、整備計画、都市計画という風に段階的に具体的になっていくものだと思いますが、そのプロセスが地元の方には見えづらい。王子の全体が、庁舎開庁の 15 年後はこうなる、その先の最終的な 30 年後あたりはこうなるという、もう少し分かる様にさせていただいた方が良いのではないかと。

5月のオープンハウスでは、これをパネルにしていくということが

決まりましたが、庁舎に合わせて 15 年後、30 年後の最終形ということが分かった方が良いかと思います。バスの乗場の話、P21 の左の丸印がバス乗り場を示している。この辺りについては、先行実施の後だという意味で良いでしょうか。まだ書かれていないため、それが伝わりにくいです。後になって、そうだったのかと言われるよりは、一遍にできるものではないので、なるべく情報は発信して、出来るだけ理解していただく努力はした方が良いのではと思います。そういう意味では、オープンハウスだけでなく、いろいろな場を通じて、時間軸的な考え方、区役所の庁舎の建設に合わせた段階的な整備のイメージを持っていただくことが必要だと思います。行政の方で計画決定すれば決まってしまうので、その前段で十分な議論が必要かと思います。その為には、5 月の時には、区の方に説明していただけると思うが、もう少し全体的なもの、時間軸的なもののイメージもお伝えいただければいいかなと思います。そういう意味では、20 が高台避難ルート検討とあるが、これは 15 年までにやると宣言している。そのあたりを上手くしてもらえれば良いかと思います。

事務局

時間軸の考え方につきましては、オープンハウスをはじめ、もう少し内容を整理させていただき、分かりやすく説明していきたいと考えています。

第 3 回検討会におきましては、全体的なスケジュール感を、15 年でどんなこと、30 年でどんなこと、そういったものが分かる資料を作成した上で、文章での補足も加えて、素案として冊子の形にまとめてお示しする予定です。

副会長

皆様のご意見をうかがっていると、ウォークブルエリアに対しては、皆様ご賛同されているように思うのですが、やはり「王子駅ならではのウォークブルエリア」の定義や兼ね備えるべき性能・条件が今日の整理の中では曖昧なので、もう少しシャープに出してもらった方が良いという印象を持ちました。

資料 P1 のところに、名称検討とありますが、名前だけではないと思います。名は体を表すではないですが、恐らく名称をつけていく中で、ウォークブルエリアのコンセプトや王子駅ならではの兼ね備えるべき条件が整理されて、それにふさわしい名前を付けられることだと思います。

また、エリアだから範囲の問題があると思います。今回示しているエリアは、今後、新庁舎を整備していくのに連鎖して、整備していくエリアになるのではないかと思います。向こう 5 年、10 年位の間に整備が

出来るのではないかという、ある確からしさをを持ったエリアではないかと思います。トラフィックから考えるサイズとしては、やや小ぶりなエリアである気がします。むしろウォークブルのコアエリアとなるのではないかと思います。そういう観点で、皆様のご議論を踏まえて、ウォークブルエリアの定義をきちんとして頂けるとありがたく思います。そのヒントがP14の左上のところに重要なキーワードとして入っている「人中心の空間を創出する」「多様な活動を展開できる空間」だと思っています。多様な活動というのは、飲食の空間をつくったり、レクリエーションであったりと単にオフィスだけではないのだと思います。

オフィスに付随する様な、いろいろな空間を展開するエリアだと思います。そうした考えを踏まえると、次の段落でもヒントとなる点が、3つくらいあるのかと思っております。「駅まち空間」、すなわち駅との連続した空間ということ、「交通結節点」「まちづくりの連携をはかる」というワードもあり、これは東西防災軸とつなぐという意味においては、非常に重要でこの地域ならではの定義に関連するのではないかと思います。

こうした考え方を起点にして、王子駅ならではのウォークブルエリア、あるいは別の名称にした場合でも、その概念定義をしていただけると、それに基づいて整備を検討していけるのではと思います。

先程から議論があるP19のネットワークやP21の整備計画、それをよりどころにして、ネットワークをつくり、時間軸、すなわち工程表に基づいて整備をしていくシナリオが出来ていくこととなります。問題の根源は、王子型のウォークブルエリアの定義がきちんと整理されていないことに起因するのかなという印象を持ちました。

P17に「南北のまちをつなぎ、ウォークブルエリアを支える道路」とありますが、これは非常に画期的であり、これが本当に繋がると東西防災軸と南北交流軸が繋がり、新しいまちの軸線ができ上がってくると思います。このイメージを大事にしていきたい。つなぐという意味を大切にしていきたいと思います。

再開発の力を利用して、整理をしていくことになるのかと思っています。茶色で塗られていますが、自動車交通ネットワークの一部と位置づけていて、尚且つ、緑の破線で歩行者ネットワークにもなっている。どちらなのか、非常に関心があります。いくつもの絵を描きながら、この地域に相応しい目標を掲げ、民間の力を活用しながら、公民連携による整備をしていかなければいけないと思います。是非、シンボルロードとなる様な、皆さんの英知を絞った様な考え方を打ち出してほしいと

思います。

会長

ご検討の方をよろしくお願いいたします。皆さんから大体共通の主旨のご意見をいただいたと思います。オープンハウスが5月に予定されていますが、そこでは、第1回、第2回でご提示いただいたご意見で、修正できるものは修正し、オープンハウスで配られます。課題を掲示して、それを見て区民の方からご意見をいただくという位置づけになると思います。

それと並行して、7月に第3回、10月に第4回、この7月と10月に向けて、今日いただいたご意見を踏まえた修正、具体化の検討をいただいて、関係機関との調整を進めたりなどいろいろあるだろうと思います。7月と10月には具体的なものを出していただいて、パブリックコメントでは、今日、皆さんからご心配いただいたことのない様なものを出すということがこの検討会の主旨かと思います。7月までの間に、今日の課題をこなすということでお願いしたいと思います。次回は、7月ということで、個別の調整等あるかと思います。ご協力をお願い致します。

5. 閉会
事務局

- ・閉会の挨拶
- ・オープンハウス説明会を5月末に実施予定である旨連絡
- ・第3回検討会は7月開催予定である旨連絡